

東台春興歌

完



Handwritten text in vertical columns on the left page of an open book. The text is written in dark ink on aged, yellowish paper. The characters are small and densely packed, typical of traditional Chinese manuscript writing. The right page is blank and shows the texture of the paper and some minor stains.

任運成

名承

悔遲生題

はらのきこ月とんこつそ

女とくおんさ言とんこつそ

いまあるあわとんこつそ

まことんこつそ

そのまことんこつそ

まことんこつそ

三月月とんこつそ

三月月とんこつそ

三月月とんこつそ

三月月とんこつそ

三月月とんこつそ

三月月とんこつそ

三月月とんこつそ

三月月とんこつそ

三月月とんこつそ

三月月とんこつそ

三月月とんこつそ

三月月とんこつそ

湖山日遊
一庭有
而

客來
儒紳
只熱
五

石

任
日

乃

我

手

今在江... 餘... 色... 石田...

如... 以... 少年... 月... 山陽... 海... 抄... 卷...

山陽... 海... 抄... 卷...

抄... 卷...

抄... 卷...

抄... 卷...

抄... 卷...

抄... 卷...

抄... 卷...

抄... 卷...

此後...
三月...
四月...

左右 杜...
赤水老人

法...
師...
石...
赤水老人

宇...
月...
赤水老人

山...
赤水老人

河...
赤水老人

晴...
赤水老人

友...
赤水老人

相...
赤水老人

赤水老人



赤水老人

Vertical text on the left side of the page, including a circular seal impression at the top left.

○この心水時、清れに説かれの事もいひて、その

集 卷之十一 法苑珠林 一 (一) 二七〇

○さうして、長老の、三佛の心水老く、説かざる七徳を、
 六帖の云く、法苑珠林の云く、三佛の心水、一、性、二、空、
 三、慧、の徳、亦、おまの、心、の、意、こ、り、を、し、る、と、い

ひ、れ、五、六、七、八、九、十、の、徳、も、し、ら、め、得、に、た、り、と、い、は、す、
 に、即、ち、は、り、の、下、の、句、を、お、し、る、と、い、は、す、と、い、は、す、
 に、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、

は、さ、ら、七、徳、を、お、ま、の、心、の、意、こ、り、を、し、る、と、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、

法苑珠林 卷之十一 法苑珠林 一 (一) 二七〇

○此の心水時、清れに説かれの事もいひて、その

○さうして、長老の、三佛の心水老く、説かざる七徳を、
 六帖の云く、法苑珠林の云く、三佛の心水、一、性、二、空、
 三、慧、の徳、亦、おまの、心、の、意、こ、り、を、し、る、と、い

ひ、れ、五、六、七、八、九、十、の、徳、も、し、ら、め、得、に、た、り、と、い、は、す、
 に、即、ち、は、り、の、下、の、句、を、お、し、る、と、い、は、す、と、い、は、す、
 に、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、

は、さ、ら、七、徳、を、お、ま、の、心、の、意、こ、り、を、し、る、と、い、は、す、と、い、は、す、と、い、は、す、

法苑珠林 卷之十一 法苑珠林 一 (一) 二七〇

我日知... 不... 外... 南... 位... 祝... 先... 於... 履... 鏡... 既...

十年十月五日...

一个... 姓... 月...

姓... 月... 姓...

姓... 月... 姓...

姓... 月... 姓...

姓... 月... 姓...

姓... 月... 姓...

姓... 月... 姓...

姓... 月... 姓...

姓... 月... 姓...

姓... 月... 姓...

山

山

山

正北名山 極高巨君賜酒 至奇感神也

名山志

垂朱偶遊名山 極高巨君賜酒 至奇感神也

極高巨君 一登物酒醉 觀山望寺 今白一登

之見深 二石年未 白思 寫於山

○ 送二卷 系系 抄物 抄於 年 後 月 十 寺

勤苦令一層忙 持此 奇 寺 之 人 長 在 半 迴 因 戒 不 克

獨 官 鏡 信 修 法 坊 北 寺 法 者 財 德 財 必 便 窮 矣

去 矣 後 幼 劫 今 以 何 保 之 遂 張 氏 吳 波 亦 以 願 矣

○寧遠志中西洋通使若干若有中一三二等之

法第百一十一條

治之始臣能盡惟保不為他國所害心不微阿屬其去古史長
傳者利凡其期其武其也刻一殺相為其去古史長
其去古史長其武其也刻一殺相為其去古史長

華軍號

軍之始臣能盡惟保不為他國所害心不微阿屬其去古史長
傳者利凡其期其武其也刻一殺相為其去古史長
其去古史長其武其也刻一殺相為其去古史長

馬臺創歷

土路三河橋軍功名之他果至至心石石室聖非極至為十
以可欲其勢五侍位位身及探官火之裝飾其生至
其生至其武其也刻一殺相為其去古史長

羅馬之信法法

殺財既士既年也其法之少至至一信其長後將七之其
其武其也刻一殺相為其去古史長
其去古史長其武其也刻一殺相為其去古史長

二道之其法為其去古史長

東東竹枝節七

其去古史長

石室之居其多其去古史長
其去古史長其武其也刻一殺相為其去古史長

其去古史長其武其也刻一殺相為其去古史長

其去古史長其武其也刻一殺相為其去古史長

其去古史長其武其也刻一殺相為其去古史長

其去古史長其武其也刻一殺相為其去古史長

相與所說持，其術
匡城令未及，格梁一，方極執門前，多指，為子，札
朋友在人，訪不也。
衆情疑上，不年，階，激，承，古，巧，扶，據，另，子，授，官，年，陳，列
五，入，以，上，官，多，多，改
君，為，利，害，十，分，安，在，上，使，使，海，下，能，歷，使，而，身，命，是，使
難，何，身，後，摸，刻，木
日，新，中，有，以，編，卷，一，喜，談，天，即，胸，次，性，好，索，今，入，任
閣，代，門，前，寸，木，春
因，循，此，息，以，亦，發，士，族，等，牛，車，又，難，官，隔，春，色，也，主，也
支，何，未，可，固，創，也。

光緒二十二年二月廿七日

春送王宗少光公赴任東京

我喜一丸熟，後海歸懸，又乃力日，侯地，命之，王，所，朱
怒然，五，御，國，道，公，不，思，謀，山，河，子，醉，史，情，家，如，不，遊
我，臨，送，日，王，現，決，之，知，以，人，仰，照，滿，樂，之，而，年，於，斯
眼，到，秋，望，即，正，一，確，作，是，皆，力，漫，使，飯，功，力，能，謀，軍
後，悔，之，此，札，和，以，現，如，地，一，即，以，前，忠，一，為，如，悔，悔

全史堂一書教讀 不日年再拜

德名春卷年 貞山公誌

姚文傳
卷之三

風雨驟時，舟中王，老，竹，風，外，曆，萬，方，今，有，子，珍

信，七，二，五，子，何，整，對，年。

本島上水石為其行揚古利平上七善行似銀力未石
此心非能辨決能

或言中平多勞也

五下者中平之時也種生者散而後生才其後在後後是

少其後在後後是少其後在後後是少其後在後後是

生作應心是不好去地以請言言言言言言言言言言

少其後在後後是少其後在後後是少其後在後後是

種生山日老重也

月老言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

烟波八島環無是不激洲或有長房樹雖然學裡進

烟波八島環無是不激洲或有長房樹雖然學裡進

初言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

社社隱陽昌年稱沙土垂清沙整信一應居長中今

與大山景名山丹地山景

言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

夫以時節自春雪山月似光老頭。爲對石苔。翠
玉到五葉。山中。層巒橫石。列。維。方。化。區。引。到。初。
喜。乃。在。此。處。枝。而。傾。外。狀。以。閉。瑞。俊。秀。則。正。壯。嚴。
然。天。下。小。人。志。人。皆。對。拉。山。時。天。下。林。三。時。習。兵。
氣。值。之。山。何。正。正。何。若。甲。之。外。不。白。中。少。說。

切。大。則。大。則。刺。鐵。一。巧。心。之。鐵。值。石。文。身。若。山。時。以。於。
許。之。二。時。決。此。山。於。再。海。引。多。千。衝。動。此。中。自。特。之。役。不。
容。乃。唯。則。刺。部。終。於。引。光。整。潔。而。大。岸。之。業。到。天。公。引。
與。事。可。隨。其。此。兼。袖。而。世。以。決。誰。若。不。分。極。方。而。終。請。
野。人。中。時。一。枚。之。骨。三。寸。六。寸。野。人。時。多。結。揚。他。化。區。
四。石。若。然。有。里。而。從。說。

其二

年。始。之。間。以。金。之。由。打。測。測。出。於。之。光。二。三。快。拍。回。羅。深。
於。已。創。神。法。激。而。無。測。決。以。時。子。乃。已。逝。其。五。八。之。可。
矣。運。之。世。也。同。對。若。不。敢。再。對。久。於。亦。亦。中。大。案。到。行。
料。今。日。初。山。活。面。目。亦。亦。以。之。六。極。說。注。洋。政。身。爰。化。自。
在。預。使。才。不。甘。自。而。花。舌。然。其。根。白。後。之。以。從。轉。回。言。
繁。心。年。說。

其二

下山。燭。鼓。也。山。勢。多。外。壘。花。炬。目。不。在。收。夕。陽。已。落。而。出。新。
水。色。如。之。已。年。年。人。之。心。於。若。若。其。大。乎。亦。亦。川。分。河。神。從。
水。上。六。分。於。年。到。十。人。夢。亦。亦。欲。然。亦。亦。難。付。之。亦。亦。上。收。引。
臨。亦。亦。能。去。也。也。人。長。許。亦。亦。群。共。以。也。也。也。也。也。也。也。也。也。

對平生心跡可曾少結。似說陳蓮車。猶故臨臨中橋。說。

其四

生在天壤。元堂使空而打。窮給八級。曲是使空易。說。
窮事元問。年方少。心。色。猶。身。策。已。決。矣。歌。不。多。起。
清。塔。欲。當。歌。別。海。分。竟。三。五。古。此。語。無。自。來。者。誰。別。於。
之。精。古。夫。又。語。四。院。已。慢。人。乃。志。者。決。誰。知。年。老。已。何。
報。括。八。荒。知。存。深。相。三。石。似。難。有。對。乎。不。不。為。知。別。和。
絕。別。絕。空。有。三。之。飯。字。有。者。一。之。誤。

其五

新水竹春山而與山海。豈而喜者。皆打。捉。於。古。他。山。
水。也。此。宮。月。夢。臨。日。熱。磨。院。淡。散。山。無。言。空。深。說。難。
斷。幾。才。四。月。珍。花。紅。而。立。杜。詩。啼。白。粉。影。製。友。招。白。石。

清又涉公室。限元不所引。於公問。涉清。其。畫。甲。七。雲。林。石。田。妙。
初。快。晴。陽。上。下。夕。陽。中。東。美。去。生。吃。口。香。嗚。呼。一。伸。河。淨。
葉。而。穿。此。法。種。不。而。山。非。小。童。之。可。語。此。許。小。童。何。言。也。
此。茶。林。乃。吾。事。中。好。

和清人八居之族

元祐三月十七日
五仙仙化居獨食

春面晴來。雙高。露。眼。將。人去。西。行。四。城。垣。籠。野。暗。未。好。社。日。雷。客。
動。水。綠。風。管。中。都。不。似。和。花。門。卷。略。相。齊。寧。之。一。犬。飛。陰。在。
無。見。行。商。想。自。吟。
雲。起。曲。磯。鹿。走。微。雨。滌。春。山。菓。草。肥。我。有。仙。標。猶。未。斷。金。華。峯。
上。料。天。地。

東台春興歌 并引

東台以時之區也。古人曰：上北。蓋開古為是也。亦守者乎。以四七。而世。似伊之。上北。各異。猶如。事。之。變。即。在。柳。系。可。以。朝。之。之。以。芝。者。於。上。北。也。而。比。於。波。之。有。教。以。又。以。於。東。教。山。上。右。是。地。安。陸。國。其。節。之。是。也。公。候。之。是。也。累。為。戎。后。之。者。及。一。天。不。之。士。操。此。法。而。以。官。軍。之。討。法。之。之。之。也。一。山。羅。兵。火。法。之。之。也。千。枝。樹。或。竹。枝。收。存。之。可。為。也。而。人。之。之。花。華。錦。者。夫。不。本。集。千。身。天。下。之。比。鳥。余。之。信。是。也。第。以。其。之。感。懷。為。元。百。戶。桑。桐。松。木。秋。春。山。之。變。雷。官。侯。聖。德。佛。教。之。不。

後天春解流濕殿 左軍在債之部與 勅向碑前渡
 湖表該多之孫也存於林鹿 只荒向元未建云示於去致
 与士族榮他地歷有人才 人吹矢原如何 不能時難時
 亦後御備之欄采成 向墨字據一坏璜 古守美末我
 士強指西此部君思 據可推忠有公私 元創一命我
 忠猛伏 天裁劍先 之獲河急程 慢若律白 鐵細
 之於天下 焉年又生 勳失供食人 善一狀

尾張

津州市川院校

○拍防掛繪

...

信長討討之一言

...

...

名取

...

極源

...

...

...

...

竹打掃堂而月と若若の多クて是れ也

破天... 料取... 月...

Handwritten text in the right margin, including characters like '竹打掃堂' and '月'.

自存一則

小東

若花... 竹打掃堂... 月...

成文八月四日...

若花... 竹打掃堂... 月...

若花... 竹打掃堂... 月...

若花... 竹打掃堂... 月...

若花... 竹打掃堂... 月...

竹打掃堂...

何... 抄本... 卷之...

卷之二

一... 抄本... 卷之二
 一... 抄本... 卷之二
 一... 抄本... 卷之二
 一... 抄本... 卷之二
 一... 抄本... 卷之二
 一... 抄本... 卷之二

一... 卷之二

一... 卷之二

一... 卷之二

一... 卷之二

一... 卷之二

一... 卷之二

一... 卷之二

一... 卷之二

一... 卷之二

一... 卷之二

一... 卷之二

一... 卷之二

一... 卷之二

一... 卷之二

卷一

廉貞

君自山之名對讀在野

玉田

梅言若無餘

玉田寄蔡平夫序卷下丙午月廿七

宜其地矣務令此心平氣和以成老之休恬

焉此他名是也廉貞。

宋：潘魏黃其家。必其有傳。無此心。必汝說也。

年年為心必也。必其有傳。

鴻名會山名在也。必其有傳。無此心。必汝說也。

